

岡本武雄 たけひと 政論家、新聞記者。弘化四年伊勢國桑名生れ、明治
二十六年十一月歿（八四七一九三）。別名中村武夫、竹雄。明治二年桑名
藩書式入塾館助教。翌年辭して上京、左院議生となり、六年茨城縣、も
ろ水澤縣の出仕。八年曙新聞社に入り、局長として社務を擴張、紙面
改良に當り、東京日日、郵便教知、朝野新聞と並ぶ四大新聞と稱せら
れるに至つた。その後社主となるも退き、十二年には東京日日の記者
ひなつて主權論を唱へた。十五年「大東京日報」を終り、主筆の原稿と
共に經營に携はる。二十一年友人福地櫻癡の紹介により東京通信社社
長に就任するも不振、晩年は不適であつた。櫻癡と共に御用記者に終
始した。

著書に『王政復古の辰始末』（卷一上増補再版・明治二十一年六月二十日、
卷一中増補再版・十月五日、卷一下増補再版・十月十五日、卷二一・六
月十一日、卷二二・二十二年二月金港堂）、『泣血録』（中村武夫名、
小山米峰・江間蘇洞校、明治二十二年四月八日江間政發編輯）等。